

ヤブマオ *Boehmeria japonica* (L.f.) Miq.

イラクサ科 Urticaceae

1. 利用対象部位：韌皮繊維

2. 組織形態：

雌雄同株の多年生草本で高さ 1.5m ほどになる。茎は下部で太さ 1.5cm 程度、断面円形、上方で丸い四角となり、髄は中実で髄腔とはならない。表皮は 1 細胞層でクチクラは薄い。下表皮は数細胞層で、構成細胞は比較的大きく、細胞壁もあまり肥厚しない。その内側に数細胞層の薄壁で大形の細胞からなる柔組織があり、更にその内側に韌皮繊維がある。韌皮繊維は皮層と一次篩部の上に発達するが、多数の柔細胞と混在していて、繊維細胞は断面多角形、単独あるいは 2~3 細胞程度が互いにくっついて繊維細胞塊となるが、アサのような大きな塊とはならない。繊維細胞は一次維管束のある位置の外側に形成され、ほぼ全周的に形成される。一次組織の分化に引きついて形成層が活動し、二次篩部を作るが、二次篩部には繊維組織は形成されない。

3. 利用例：糸、織物など

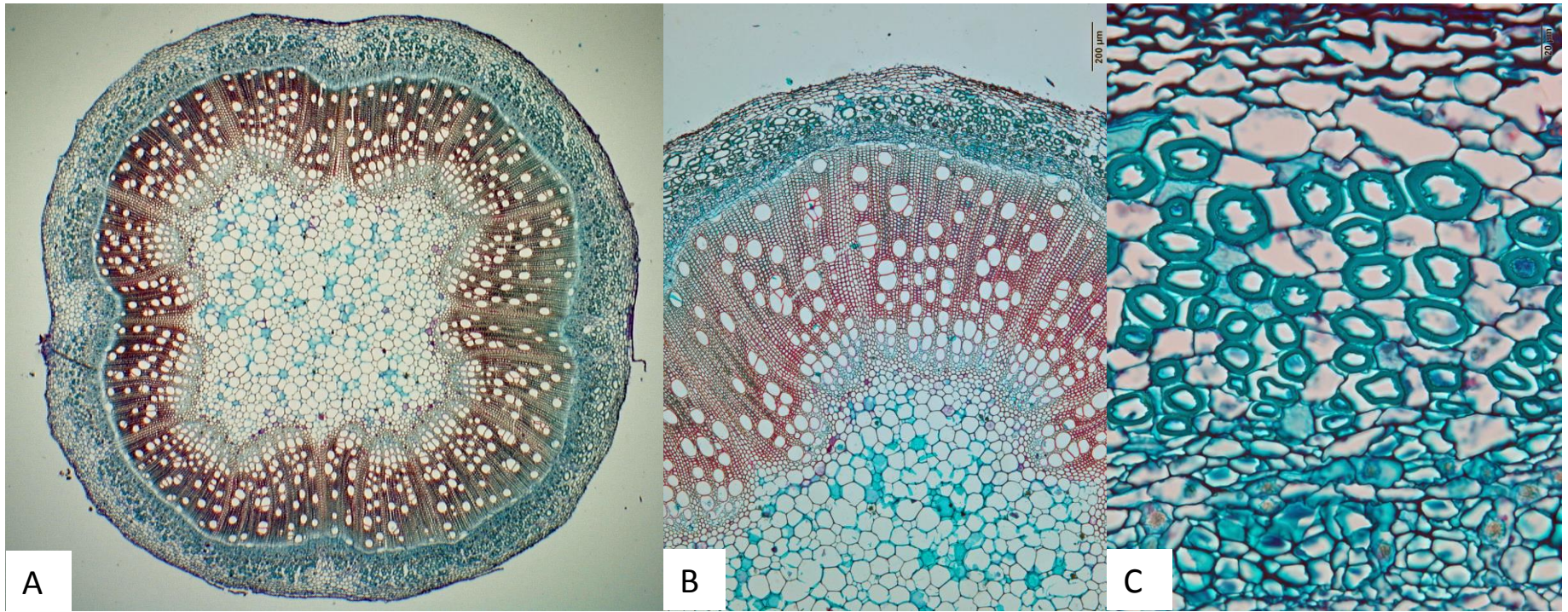
4. 遺跡出土遺物：小林・鈴木（2015）は秋田県横手市の神谷地遺跡の土坑墓から出土した「朱漆塗り糸」（縄文時代晩期）をカラムシやヤブマオの可能性があると報告しているが、特定には至っていない。

鈴木ら（2017）は青森県に目屋村の川原平（1）遺跡（縄文時代晩期）の漆漉し布 3 点について、カラムシ、アカソ、ヤブマオ、イラクサなどを含めた意味での「イラクサ科の繊維」と報告している。

小林和貴・鈴木三男 2015. 「神谷地遺跡の土坑墓から出土した朱漆組の素材」 横手市教育委員会『神谷地遺跡・小出遺跡』:448-449.

鈴木三男・能城修一・小林和貴・佐々木由香 2017. 「木質遺物・繊維製品の素材植物同定」 青森県埋蔵文化財センター『川原平

(1) 遺跡Ⅷ』



A

B

C

A: ヤブマオの茎の横断面。二次組織の形成が始まっている。髄は中空にならない。一次維管束の束間部分は二次木部では「巨大な放射組織」となっている。B: 茎横断面の拡大。上から表皮、下表皮、皮層、韌皮繊維、一次篩部、二次篩部、二次木部、一次木部、髄の順に層状に配列している。C: 韌皮繊維の拡大。柔細胞と繊維細胞が混じり合っている。繊維細胞は多くは単独、時に2-3細胞が集合している。